

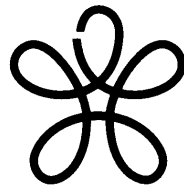
ISSN 0385-8367

*MEDICAL JOURNAL OF KINKI UNIVERSITY*

# 近畿大学医学雑誌

第25卷 第1号

2000



## MEDICAL JOURNAL OF KINKI UNIVERSITY

## 近畿大学医学雑誌

第25巻 第1号 2000

## 目 次

## 原 著

気管支喘息における気道反応性亢進のメカニズムの解明： 実験喘息モルモットにおける脂質メディエーターの関与について ……………川合右展	1
Flow cytometry 法による <i>Candida species</i> の迅速な薬剤感受性測定法の開発 ……………黒田隆也	13
表層、深層の関節軟骨細胞における細胞内カルシウムイオン情報伝達系に関する検討 ……………西坂文章	25
アトピー性皮膚炎患者皮膚におけるピクニンの存在部位とその変化について ……………松倉章子	35
新規内在性レトロウイルス関連遺伝子の血液腫瘍細胞株からの分離と 成人T細胞性白血病病期における相関性の検討 ……………東芝昌樹，堀内房成	43
実験的糖尿病神経障害ラットにおける末梢神経大径線維と小径線維の機能評価に関する研究 …中坂義邦	51
ラット腸上皮細胞におけるケモカインの産生と酪酸および薬物による影響 ……………川端一史，大野恭裕	59
Multicentric Castleman's Disease 患者に認められたT細胞芽球化抑制因子の同定 ……………佐野徹明，辰巳陽一，木村英嗣，嶋田高広，金丸昭久	69
エストロゲン刺激による破骨細胞の osteopontin 遺伝子発現と骨吸収窩形成に対する影響 ……山口博史	79
実験的糖尿病性末梢神経障害の神経内血管に対する angiotensin II の作用 ……………三井真奈美	91
ラット大腸癌細胞における sialyl Lewis X の発現が肝局所免疫機構に与える影響 …河合 功，奥野清隆	99
直腸癌神経浸潤における細胞外マトリックスの重要性：癌間質のテネイシン発現についての 免疫組織化学的研究 ……………内田寿博，所 忠男，肥田仁一	107
浸潤性乳癌における染色体不安定性の臨床意義：蛍光 in situ hybridization 法による 1, 11, 17番染色体数的異常の解析から ……………今西幸仁，乾 浩己，平井昭彦，綿谷正弘	119
術直前短期に化学療法を施行した胃癌症例の apoptosis 誘導とその経路に関する免疫組織化学的研究 ……………平井久也，今野元博，加藤道男，大柳治正	129
部分肝切除後の肝再生における綿溶解因子の関与：プラスミノーゲンノックアウトマウスを用いた検討 ……………田中勝喜	139
当科における原発性抗リン脂質抗体症候群と SLE 合併抗リン脂質抗体症候群の臨床的検討 ……………浜田欣哉，兪 炳碩，杉山昌史，橋本圭二，生駒真也， 大野基樹，木下浩二，船内正憲，金丸昭久	149

## 症 例

- 偏心性屈曲性病変に対する PTCA 施行後、冠動脈解離を生じ Palmaz-Schatz ステンツ植え込みにより  
離脱し得た 1 例 .....井上嘉一, 金政 健, 林 孝浩, 佐々木 剛, 中林孝之,  
長谷川隆弥, 池田章子, 森井秀樹, 内藤方克, 石川欽司 155

## 医学講座 (教育)

- 華岡青洲自筆「丸散便覧序」考—現代語訳および注解— .....高橋 均, 松村 巧 161

## 第47回 近畿大学医学会学術講演会

- プログラムおよび抄録 ..... 1A  
第10回 (平成12年度) 近畿大学医学会奨励賞募集要項 ..... 1S

# 近畿大学医学会会則

第 1 条 本会は、近畿大学医学会と称する。

第 2 条 本会は、医学の進歩発展に寄与し、医学的知識の向上と、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 近畿大学医学雑誌および Acta Medica Kinki University の発行
2. 学術講演会の開催
3. 学術図書の発行
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第 4 条 本会は、次の会員をもって組織する。

正 会 員 近畿大学医学部に所属する教員，研修医，大学院学生および特別研究生

近畿大学学園の医学部以外の教職員および研究員で本会に入会を希望し評議員会で承認されたもの

近畿大学医学部卒業生

準 会 員 近畿大学医学部に在学する学生

名誉会員 本会の発展に著しい貢献のあった者で、幹事会の提議により評議員会で承認されたもの

特別会員 前記会員のほか、本会の主旨に賛同し入会を希望する医学関係者で評議員会で承認されたもの

賛助会員 本会の主旨に賛同し、本会に援助することを希望するもので評議員会で承認されたもの

第 5 条 会員は、附則に定める会費および入会金を納入しなければならない。

2. 会費を納入した会員は、近畿大学医学雑誌および Acta Medica Kinki University の配布を受けるほか、第 3 条の事業に参加することができる。
3. 準会員は第 3 条の事業に参加できるが雑誌の定期的配布は受けられない。但し学術講演会や雑誌に発表した場合は当該巻号の雑誌を希望により受けることができる。

第 6 条 本会に次の役員をおく。

会 長 1 名 近畿大学医学部長がこれにあたる

副 会 長 1 名 会長が委嘱する

顧 問 若干名 会長が委嘱する

幹 事 若干名 会長が委嘱する

評 議 員 若干名 会長が委嘱する

監 事 2 名 会員中より評議員会で選出し会長の承認を得る

2. 役員任期は、2 年とする。ただし再任を妨げない。

第 7 条 会長は、本会を統轄し、必要に応じて幹事会、評議員会を開催し、その議長となる。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長が不在のときは、これを代行する。

第 8 条 幹事は、幹事会を組織し、本会の会務（庶務・会計・編集その他）を分担し執行する。

第 9 条 評議員は、評議員会を組織し、本会の重要事項を評議する。

第 10 条 監事は、本会の会計および資産などを監査する。

第 11 条 総会は、年 1 回これを開催し事業の報告などを行う。

第 12 条 本会の会則を変更する場合は、評議員会において出席者の 2 分の 1 以上の同意を必要とする。可否

# 原稿作成の手引き

## 1. 一般的注意

- 1) 本要項は近畿大学医学雑誌（近畿大医誌）に投稿する論文執筆の参考にするため作成したものである。
- 2) 近畿大医誌は広範囲の領域の研究者により読まれることが期待されるので、平易でわかり易い表現を心掛け、ある専門領域でのみ通用する用語、略語は避けるべきである。
- 3) 記述は正確、明快、簡潔なものであるとともに、必要かつ十分なものであるべきである。
- 4) 原稿用紙は良質な A4 コピー用紙あるいはタイプ用紙とし、1 枚に一行20字で20行の横書きとする。原稿は原則としてワープロにより印刷されていること。フロッピー（ソフトは一太郎あるいはマックライト II でテキストスタイル）を同時に提出することが望ましい。
- 5) 数字は原則としてアラビア数字とする。3桁ごとに、を打ち、小数点は.とする。ただし単位を適切に選び、0が多く連なり長くなることを極力避けるよう配慮すること。また、日本語の成語となっているものは漢字で書く（例えば二重、四捨五入）。
- 6) 文章は現代仮名づかい、平仮名混りの口語体とする。読み易いように適切にコンマを用い文章の終わりはピリオドとする（.とはしない）。長文や複雑な構文はなるべく避ける。医学用語以外の漢字は原則として常用漢字を用いる。あるいは、いまだ、および、さらに、ただし、なお、ならびに、まだなどは平仮名で書く。また、日本語化した外来語は片仮名で書く（例えばラジオ）。
- 7) 字体を指定するときは、下記のように下線をつける。  
ゴシック体 ~~~~~, イタリック体 ———, スモールキャピタル =====, ラージキャピタル =====  
イタリックは生物名のときなど特に指定されたときのみ用い、原則的に本文中で強調する目的には使用しない。常用されるラテン語、例えば *in vitro*, *in vivo*, etc., *et al.* などはイタリックにしない。
- 8) 論文作成のために日本語および英語科学論文作成のために多くの参考書があるのでぜひ一読しておかれたい。

## 2. 論文の種類

- 1) 近畿大医誌に掲載される論文は、原著、総説、症例報告の他、編集委員への手紙あるいは技術レポートなど幅広い内容と形式を含む。
- 2) 原著は、著者自信の学術研究で、ある結論に達したものをまとめたもので、方法、結果、またはその解釈が従来の報告にみられない、新規で独創的なものを含んでなければならない。
- 3) 総説は、ある主題について、既に発表された内外の文献を紹介し、現時点におけるその主題の研究状況と将来の展望などを総合的に論述するもので、必ず著者自信の学問的見解が反映されていなければならない。
- 4) 症例報告は、主として患者の症例について体験の結果を報告するもので、原因、診断、治療などについて討議する価値があると判断されたものでなければならない。

## 3. 論文の基本構成

- 1) 原稿は、原則として次項 (3.2) に示す順に各項目ごとに新しい頁から書始め、一まとめに揃える。表紙から始めて文献まで、連続した頁番号を打つ。図は紙に張り付け、別にまとめること。
- 2) 論文は通常次の項目からなる。  
(1)表紙, (2)抄録とキーワード, (3)本文, (4)謝辞, (5)文献, (6)表, (7)図の説明, (8)図。
- 3) 原著の本文は通常次の項目からなる。  
(1)緒言, (2)方法, (3)成績, (4)考察。
- 4) 総説、症例報告などでは3)に準じるが、適宜変更しても差支えない。

## 4. 表紙

- 1) 通常表題、氏名、所属、省略題名、脚注の順に記載し、最後に図表の枚数を赤字で明示する。
- 2) 表題は論文の中で通常最初にしかも最もよく読まれるものであり、論文の内容を簡潔かつ明確に示すことが必要である。
- 3) 副題はなるべく避ける。
- 4) 動物実験の場合は原則として動物名を表題に含める。この際学名でなく一般名を用いることが望ましい（例えば、ラット、カエル）。
- 5) 表題には略語や化学記号は原則として使用しない。
- 6) 氏名は連名のときは1字分あけて書き、各著者

間にコンマは用いず。また最後にピリオドは打たない。学位、職名などは付けない。

- 7) 連名の場合、筆頭著者と所属の異なるものは\*、\*\*などを右肩に付して区別する。
- 8) 所属は、近畿大学医学部第1内科学教室、近畿大学医学部附属病院臨床検査部などと略さずに記載する。第1などの数字はアラビア数字とする。
- 9) 省略題名 (Running title) は、30字以内のランニングタイトルを付ける。欧語論文では、スペースも含め50字以内とする。
- 10) 表紙の脚注には、別刷請求先が筆頭著者と異なる場合 (別刷請求先: ○○○○〒○○○○○市○○○○大学医学部○○学教室と記す), および著者の所属変更 (†現所属機関: 〒○○○○○市○○○○大学医学部○○学教室と記し, 氏名覧右肩に†を付す) の場合のみ記載すること, 学会発表や研究費補助は謝辞の項に記載する。脚注の最後に連絡先 (電話番号を含めること) と氏名を記載する。

## 5. 抄録とキーワード

- 1) 抄録は本文から独立したもので、本文を参照しなくても研究の要約が理解されるものでなくてはならない。研究の目的、試験または調査の基本的企画 (実験動物種、研究対象、検索または分析方法など)、主要成績 (新しく重要な点を述べ、統計的有意性についても触れる) および結論を含んでいることが必要である。全体で600字以内にとどめる。一人称は使わない。
- 2) 原則として分節はしない。
- 3) 略語は衆知のもの (例えば WHO など) を除き用いない。すなわち、本文中に正式名の次に括弧で示した略語は抄録では原則として用いないこと。
- 4) 抄録には原則として文献を引用しない。
- 5) キーワードとして論文の内容を適切に示す主要な単語、もしくは短い語句を6語程度選択する。キーワードは二次資料において検索の重要な手掛りとなるもので、Medical Subject Heading (MeSH, Index Medicus) を参考にし、できるだけそれから採用することが望ましい。2つの単語を接続詞や前置詞でつながないこと。また、キーワードの配列は、原則として重要度順とする。

## 6. 本文

### 1) 緒言

研究の目的を明確に述べ、研究の必要性、意義を要約する。この際、研究に直接関係する文献を厳選し、歴史を広範囲に解説するような総論的、

教科書的記述をしてはならない。実験結果の要約をここに記述することは避ける方がよい。

### 2) 方法

- i) 研究に用いた材料または対象と、実験 (観察) 方法を述べる。動物実験にあつては、動物種、系統、性、体重、年齢、飼育環境、飼料と飲料水を明記すること。
- ii) 実験または調査にあつては、読者が実験もしくは調査を繰返すことが可能な情報がすべて含まれていることが必要である。国際的な専門誌に発表された衆知の方法および近畿大医誌に掲載された自己の論文と同じ方法を使用したものであれば、その論文名を引用して簡略に記述してもよい。新しい方法もしくは変法を使用したときはその理由を述べること。特殊な機器を使用した場合は、その製作所名と所在地を ( ) 内に示す。
- iii) 動物実験は、動物の保護および管理に関する法律 (昭和48年法律第105号) および実験動物の飼養および保管等に関する基準 (昭和55年総理府告示第6号) に反するものであつてはならない。実験時および剖検時の麻酔を明記する必要がある。麻酔をせずに実験を行ったときは、その必要性、動物の苦痛を最小限にするよう行なった処置について述べる必要がある。
- iv) ヒトを対象とした実験的研究では、1975年のヘルシンキ宣言 (東京改訂) の原則を遵守して、被験者に実験内容を説明し、承諾を受け、倫理的に正しく試験が施行された由の記載が必要である。

### 3) 成績

- i) 結果を事実にとつて記述する。表や図にまとめて本文の記述を簡潔にすることが望ましい。この際、図や表に示された個々のデータは、特に強調すべきもの以外は、本文中に繰返すことを避け、重要所見のみを要約すること。なお、図や表はすべて本文中に引用されなければならない。
- ii) 統計的処理を行なったものについては、観察、平均値、標準偏差あるいは標準誤差、確率などを本文もしくは表、図中で示し、統計的有意差について述べる必要がある。

### 4) 考察

成績の項で述べた事項を詳細に反復することは避け、得られた所見の解釈や意見に重点を置き、先人の業績との関連について論じる。研究の新規でかつ重要な面を強調し、成績から導き出される結論を明確にする。先取権を争うような記述は避けるべきである。新しい仮説の提唱は歓迎されるが、十分に事実に立脚したものでなければならぬ。

- 5) 見出し
- i) 本文中に見出しおよびその番号をつけない。緒言、方法、成績、考察および謝辞は太活字で印刷されるので、見出しを付けない。
- 6) 脚注  
本文中には脚注を設けない。表紙および表の脚注はそれぞれの項を参照のこと。
- 7) 用語
- i) 医学用語は各専門学会設定の用語集や日本医学用語辞典などを参照して、最も適切な語を用いる。
- ii) 日本語の定訳のない医学欧語については、原語のまま使用してよいが、本文中に最初に現われる所で、仮訳を（ ）で記することが望ましい。
- iii) 各専門領域や病院内でのみ通用する俗称や略称は用いてはならない。
- iv) 外国人名、地名、その他の外国語名は原則として原名綴りのままとする。固有名詞とドイツ語の名詞のみは最初の一字を大文字、その他は小文字とする。ただし極めてよく知られた語は片仮名で書いてもよい（例えば、アメリカ）。
- v) 本文中の人名は姓のみとし、名や敬称は原則として省く。同姓のものがあるときは名もしくはイニシャルを入れて区別する。
- vi) 動物や微生物名のラテン語学名は大文字で始め、イタリックで書く（下線でイタリックと指定しておく）。最初に出てくるときは属名を省略してはならない。日本語は片仮名で書く。日本語名もしくは欧語名とラテン語学名を併記するときは日本語もしくは欧語名を先に書く（例えば、アカゲザル, *Macaca mulatta*; Japanese monkey, *Macaca fuscata*）。
- vii) 薬品名など化学物質名は、できるだけ一般名を原名綴りで小文字で書く、化学記号で記すことは本文中では避ける（例えば NaCl）。商品名は大文字で始め、®を右肩に付する。商品名を単独で使用することはなるべく避け、一般名の次に（ ）で商品名を示すこと〔例えば, hydralazine hydrochloride (Apresolin®)〕。ただし極めてよく知られている化学物質名は片仮名で書いてもよい。商品名は本文中には反復して用いず、一般名もしくはその省略名を用いることが望ましい。
- 8) 省略
- i) 衆知の省略語以外の専門用語を省略して用いようとするときは、本文中に最初に述べられるところに正式に書き、続いて（ ）に省略名を示す。例えば rheumatoid arthritis (RA) とする。（以下 RA と略す）のように以下と「略す」を書かない。
- ii) 表題および抄録では省略名は原則として使用しない。ただし抄録で繰返し使用する時は最初に正式に書き、続いて（ ）内に省略名を書く。
- 9) 単位
- i) 原則として国際単位系 (International System of Unit. SI) を用いる。
- ii) SI 系の基本単位は7つで、長さはメートル m, 質量はキログラム kg, 時間は秒 s (sec とはしない), 電流はアンペア A, 熱力学温度はケルビン K, 物質量はモル mol, 光度はカンデラ cd である。
- iii) 10の単位のべき指数表記に用いる位取り接頭語としては、 $10^3$  キロ k,  $10^2$  ヘクト h,  $10$  デカ da,  $10^{-1}$  デシ d,  $10^{-2}$  センチ c,  $10^{-3}$  ミリ m,  $10^{-6}$  マイクロ  $\mu$  ( $\mu$  とイタリックにはしない),  $10^{-9}$  ナノ n,  $10^{-12}$  ピコ p などを用いる。これらの単位にピリオドはつけない。また複数のときも s を付けない。
- iv) 一般に医学で許されている非 SI 単位としては、時間については分 min, 時 (60分) h (hr とはしない), 日 d であり、週 wk, 月 mo, 年 yr などとも用いてもよい。さらに体積のリットルは l (= ldm<sup>3</sup>, イタリック l や大文字 L にはしない。接頭語がなくまぎらわしいときは必要に応じ liter と綴る), 角度 (度° =  $\pi/180$  rad, 分', 秒") なども許される。その他当分の間一般に許される非 SI 単位としては、キュリー ci ( $3.7 \times 10^{10}$  Bq), レントゲン R ( $2.58 \times 10^{-4}$  C/kg), ラッド rad (=  $10^{-2}$  Gy あるいは  $10^{-2}$  J/kg) がある。またモル濃度 (M = mol/l) も使用しうる。栄養学においてはエネルギーの単位としてキロカロリー kcal<sub>th</sub> は使用しうるが、SI 単位の 4.184 kJ または 0.004184 MJ を併記することが望ましい (calorie, Calorie とは書かない)。
- v) 次の単位は用いないこと。したがって→の単位を用いる。オングストローム (Å) → 0.1 nm, ミクロン ( $\mu$ ) →  $\mu$ m, ミリミクロン (m $\mu$ ) → nm, ガンマ ( $\gamma$ ) →  $\mu$ g, ラムダ ( $\lambda$ ) →  $\mu$ l。
- vi) 医学における SI 単位の使用については、WHO. The SL for the health professions. Geneva: WHO, 1977 を参照されたい。
7. 謝 辞
- i) 研究の企画や進行、論文の作成などは特に助力を受けた人に対し、簡潔に謝意を表す。
- ii) 研究費の補助は、単にその事実をここに記載する。補助に感謝するという表現はしない。
- iii) 学会発表の記録を述べるときは、「本論分の要旨は○年○月、第○回日本○○学会で発表した」

というような形式でここに記載する。ただし、上記 7. i) と 7. ii) 項に該当するものがなく、本項のみであるときは謝辞の見出しは省略する。

## 8. 文 献

- 1) 本文中の引用箇所に引用順に一連番号で文献番号をうわつきのアラビア数字で、<sup>1,2,3,4-6</sup> のように示す。本文中に著者名を記載するときは、Smith<sup>1</sup> (1人の場合)、SmithとYoung<sup>2</sup> (2人の場合)、Smithら<sup>3</sup> (3人以上の場合)と記す。
  - 2) 表や図のみに引用される文献については、その表や図が最初に本文中に述べられる箇所で、本文中の引用順に番号を打つ。
  - 3) 引用文献は一括して文献の項に引用順に記載する。
  - 4) 文献の記載方法は、下記の記載例に準じるものとする。雑誌名の省略は、欧文誌は Index Medicus (毎年1月号に省略名のリストが掲載されている)に従い、和文誌は SIST 科学技術情報流通技術基準05:雑誌名の略記、東京:日本科学技術情報センター。1981年に原則的に従う(医学中央雑誌収載目録、医学中央雑誌1983年第24号通巻第3303号付録を参照のこと)。なお、本医学会の雑誌の省略名は近畿大医誌および Acta Med Kinki Univ である。
  - 5) 文献の記載は、原則として、雑誌の場合は、著者名、発行年、題名、誌名、巻、頁(通巻頁の始めと終り)の順に、単行本の場合は、著者名、発行年、論文題名、編者名、書名、発行地(複数のときは最初の地名のみ)、発行所、頁(始めと終り)の順に記す。  
著者名は全員をあげ、もしくは et al. をつけて省略しない。和文誌は姓名を記し、欧文誌のときは名はイニシアルのみを記載する。著者の姓と名の間にコンマや、イニシアルの次にピリオドは打たない。イニシアルが2つ以上ある場合その間にスペースを置かない。また雑誌の省略名の次にピリオドは打たず、論文名や書名はすべて最初の語のみ大文字で始め、後に続く語は固有名詞とドイツ語の名詞以外は小文字で始める。副題があるときは:(コロン)で結び、副題は固有名詞やドイツ語名詞の場合を除き、小文字で始める。  
終りの頁は、完全に書く(最初の頁と同じ数字の桁も省略しない)。  
文献の記載例は下記のごとくである。  
i) 雑誌
1. Ashida T, Kanbara M, Hazu S, Morita S, Tsuji K, Ishikawa H, Hamazaki H, Urase F,

Tsubaki K, Horiuchi A (1993) Change of serum erythropoietin levels after allogeneic bone marrow transplantation. Acta Med Kinki Univ 18: 13-19

2. Foroni L, Laffan M, Boehm T, Rabbitts TH, Catovsky D, Luzzato L. Rearrangement of the T-cell receptor delta genes in human T cell leukemias. Blood (in press)

### ii) 図書

著者が個人の場合

1. Adams DO, Edelson PJ, Koren HS (1981) Methods for Studying Mononuclear Phagocytes. San Diego, CA, Academic Press, pp 1-293

編集者などが著者の場合

1. Benirschke K, Garner FM, Jones TC, eds. Pathology of laboratory animals. New York: Springer-Verlag, 1978

2. 上田英雄, 武内重五郎編. 内科学. 東京: 朝倉書店, 1977

単行本の中の1章など

1. Sallan SE, Weinstein HJ (1987) Childhood acute leukemia, In: Nathan DG, Oski FA (eds): Hematology of Infancy and Childhood, Vol 2. Philadelphia, PA, Saunders, pp 1028-1031

- 6) 未公表資料, 私信 (Personal communication) などは文献としては引用しない。本文中に ( ) を付して明記する。受理されたが未刊行の論文は文献として採用し(印刷中, 欧文誌では in press) とする。送付したが受理されていない論文は、文献とはせず、本文中に(未発表, unpublished observation)とする。私信を掲載するときは発信人の許可を必要とする。

- 7) 文献は原典を著者が確認すべきであり、原則として再引用(孫引)はしないこと。止むを得ず孫引をするときは、原典の次にそれを引用した文献および引用頁を明らかにし、一より引用と明記する。

## 9. 表

- 1) 表は各個体もしくは群の実験値あるいは観測値を簡潔にまとめて比較するためのもののほか、本文中に羅列すると冗長になりやすい分類や体系を箇条書き的にまとめるなどに利用される。したがって、表示した成績を本文中でくどくど再説明しないこと。また特に必要でない限り、同一データを図と表に重複させない。



- 2) すべての表は本文中に指示されていなければならない。本文中に引用される順に表1, 2と番号を打つ。本文中では、「…表1に示した。」、「…である(表1).」などと表現する。表の位置の指示は本文中原稿の右横に赤鉛筆で行う。
- 3) 原則として刷上がり1頁以内におさまるように工夫すること。雑誌を横にしてみる表はなるべく避けること。
- 4) A4判タイプ用紙を用いて、1表ごとに作成する。原則として写真印画は受付けない。学会発表スライドは、表現が簡略すぎるなどそのままでは雑誌には不向きことが多いので注意すること。
- 5) 表のけい線はできるだけ省略する。縦線は原則として入れない。通常は3本の横線で十分である(縦欄見出の上, 下および表部分の下に各1本)。
- 6) 表題, 見出し, データ部分, 脚注など全て日本語で表現する。
- 7) 表に実験値または観測値など数字を並べるときは、適切な単位を用いて異常に大きい, あるいは小さい数字にならないよう配慮し, 有効桁数を揃える。また平均値と標準偏差もしくは標準誤差の有効桁数のバランスも考慮する。平均値は  $m$ , 標準偏差  $SD$ , 標準誤差は  $SE$  で表わす。必ず実験(観察数,  $n$ )を明示し, 検定の確認が可能なように配慮する。
- 8) 実験材料など詳細な説明は, 脚注として表の下に配置する。見出し記号には \*, \*\*, †, §, などが用いられる。危険率  $p$  は小文字とし, イタリック  $\rho$  や大文字  $P$  は用いない。文章でない説明にはピリオドは原則として打たない。

## 10. 図

- 1) 図には線画, 中間調の図と写真があるが, ここではすべて図として取扱う。
- 2) 図には折線や棒グラフ, 平面もしくは立体模式図などがある。表よりも視覚に訴えて一見して理解できる利点があるが, 反面, 正確または詳細なデータの記載には向かない。これらの点を総合的に考慮して, より適切な方法を選ぶこと。原則として同一データを図あるいは表と本文とで重複させない。
- 3) すべての図は本文中に指示されていなければならない。本文中に引用される順に1.2と番号を打つ。文章の一部として示すときは, 図1に示すごとく……のように表記するが, ( ) 内に示すときは(図1)とする。複数の場合, 前者では, 写真の場合も区別せずに図として通しの番号を付し, 写真とはしない。
- 4) 線画と中間調の図
  - i) 原則としてそのまま製版できるよう完成され, 焼付けたものでなければならない。学会発表のスライドは不必要な文句が入っていたり, 文字の不統一があるのでそのままでは一般に不適切である。
  - ii) 焼付けた図の大きさは印刷されたときの大きさを考慮すること, 原寸でもよいが, 一般には2/3~1/2程度に縮小印刷されるようなものが望ましい。近畿大医誌, Acta Med Kinki Univ とも, 横幅1段7.5 cm, 2段連して15.0 cm であるので, そのいずれかに刷上がるよう配慮すること。製作の関係上横幅1段7.5 cmの方が望ましいので, このサイズへの縮小に耐える字の大きさ, 線の太さが必要である。原則として2段の中途までかかるような割付けは採用しない。
  - iii) 図中および縦, 横軸の語句や数字は原則として著者が完成させておくこと。この際刷上がりで字の高さが1.5 mm以上になるようにしなければならない。
  - iv) 図はA4判の厚手の台紙(より大きな図では適当な大きさのものを用いる)に1図ずつ別に軽く張付ける。この際A4判大のビニールカバー付きのアルバム台紙を利用してもよい。図の隅もしくは裏に, 図番号と著者名を鉛筆で入れておくこと。図の裏に図番号と著者名を鉛筆で入れておくこと。
- 5) 写真
  - i) 黑白写真は光沢仕上げ(つや消し, 絹目は不可)で, コントラストの鮮明なものを提出する。カラー写真および特殊写真は10.5.9.と10を参照のこと。
  - ii) 写真の大きさは刷り上がりで1段横7.0 cmまたは2段連14.0 cmの範囲内とし, 縦はトリミングによる。(最大21.5 cmを限度とする)
  - iii) 写真上にインスタントレタリングなどでラベルをてん付するときは, 横3 mm以上離して, 取れないよう配慮すること。また字の高さは刷上がりで2 mm以上が必要である。この際白地に黒字, 黒字に白地を用いるなど, コントラストを十分考慮すること。
  - iv) 顕微鏡写真(光顕, 電顕とも)では撮影倍率を示すことが必要である。
  - v) 写真の裏に著者名, 図番号, 上下, 希望縮小率などを記入する。写真は正確に四角に裁断し, 余分な空所は残さないこと。
  - vi) 完成した写真は, 図1枚につき1つずつA4判厚手の台紙に軽く張付ける。汚れを防止するため

に台紙にカバーをつけることが望ましい。A4大のビニールカバー付きアルバムを用いてもよい。2枚以上の写真を組とすときは、コントラストや濃淡のできるだけ揃ったものを用い2つの写真の間の空白は2mm以下になるよう配慮する。いわゆるプレートとして組写真にするには、横13.8cm×縦20.5cmまで利用できる。

vii) カラー写真はポジスライドまたはネガカラーフィルムを提出すること、原則として印画は引受けない。ポジスラロイドの場合は、適当な大きさの黑白印画紙に焼付けたものを同時に提出し、刷り上がりの大きさとトリミングを指定する。ネガカラーフィルムの場合は適当な大きさのカラー印画紙に焼付けたものを同時に提出し、色調のチェックとともに、刷り上がりの大きさ、トリミングを指定する。特殊記録（脳波など）はポジスライドからの印刷を引受けることがある。最終原稿提出の前に編集室に問合わされることを希望する。ポジスライドを提出の際は、ポジカラーの場合と同様に、印画紙に焼付けたものを同時に提出すること。

viii) 個人識別が可能な写真を掲載するときは、眼隠しの黒紙を張付けるなどして識別不可能とするか、あるいは患者もしくは法廷代理人の書面による許可が必要である。

## 11. 図の説明

1) 図とは別の用紙に、日本語で印刷すること。同じ紙に図1、図2と説明を続けてよい。図の表題は簡潔なものとする。それに続く説明部分は、改行して印刷すること。

## 近畿大学医学会役員

会長	安富正幸	幹事(会計)	石川欽司
副会長	鈴木庸之	〃(編集)	戸村隆訓
顧問	野田起一郎	〃	青木矩彦
幹事(庶務)	奥秀喬	評議員	教授全員
〃	松尾理	監事	花田雅憲
〃(会計)	栗田孝	〃	橋本重夫

### 編集委員会

戸村隆訓(編集長)			
青木矩彦	福岡正博	東野英明	松尾理
宮澤正顯	村田清高	大柳治正	種子田護

---

「原稿作成の手引き」は各巻の第1号にあります。  
また必要な方は編集部宛お申込み下さい。

---

## 近畿大学医学雑誌

第25巻 第1号

平成12年6月25日 印刷  
平成12年6月25日 発行

発行人 安富正幸

編集人 戸村隆訓

発行所 近畿大学医学会

☎589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377番地の2  
近畿大学医学部内

印刷所 近畿大学 管理部 出版印刷課

☎577-8502 大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号

---